

## 2022年3月期 第2四半期決算 FAQ

### Q1：1Q末時点で受注高が前年同期比72.0%増であったが、2Q末時点で33.3%増にまで低下した理由は？（決算説明資料p5関係）

以下の2つの要因によります。

#### ①早期定額型の受注前倒し

1Q累計において、受注確度の高い顧客から前倒しで受注ができたため、前年同期比で受注が大きく伸びました。

#### ②成功報酬型の受注前倒し

前期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で企業の採用選考活動が一時停滞したことにより、学生の内定決定のピークが7～8月頃となりました。

一方、当期は、新型コロナウイルス感染拡大前の水準（2020年卒）に戻ったことにより、学生の内定決定のピークが6～7月頃となりました。

以上より、1Q累計で、前年同期比で受注が大きく伸び、2Q累計でも受注高は予想通りに進捗しております。

### Q2：契約負債（前受収益）考慮後のOfferBox売上高とは？（決算説明資料p9関係）

早期定額型は、受注高を一定の期間（最長2年）にわたり期間按分して売上計上しています。そのため、受注済・売上未計上のものは、BS上契約負債（前受収益）となります。このうち、当期に売上計上されるものとPLのOfferBox売上高を合算したものが、契約負債（前受収益）考慮後のOfferBox売上高となります。

表面上の売上高（PL）よりも実際の収益性は高いといえます。

### Q3：2022年卒のオファー承認率が低下している理由は？（決算説明資料p14関係）

オファー承認率は、学生の就職内定率の影響を受けます。

就職内定率が高ければ、就職活動を終える学生が増えるため、その分、オファー承認率は低下する傾向にあります。

2021年卒の2020年10月1日時点の就職内定率は88.7%であったのに対して、2022年卒の同時期の就職内定率は92.4%でした。（出典：(株)リクルート 就職みらい研究所 就職プロセス調査（2022年卒））

当期における2022年卒の就職内定率は前年より3.7pt高く、新型コロナウイルス感染拡大前の水準に戻りつつあります。

このため、2022年卒のオファー承認率が、2021年卒のオファー承認率と比較してわずかに低下しています。

### Q4：オファー送信件数が大幅に増加している理由は？（決算説明資料p14～15関係）

1Qと同様、以下の2つの要素から増加しています。

#### ①稼働企業数（注）の増加

順調に登録企業社数が増加しており、営業部門の顧客フォロー体制の強化やワクチン接種の広がりなど経済の正常化に向けて企業の採用意欲が高まっていることから、稼働企業数が増加しています。

#### ②1社あたりのオファー送信件数の増加

前期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で新卒採用活動よりもテレワーク制度の整備などへの対応が優先されていたこと、コロナ禍での新卒採用活動手法が確立されていなかったことなどを受け、企業の新卒採用における活動量が低下しました。

一方、当期は、多くの企業でコロナ禍での新卒採用活動手法が確立されたこともあり、新卒採用における活動量が2020年卒の水準に戻ったため、1社あたりのオファー送信件数は増加しています。

以上

### 【免責事項】

本資料は、当社の業界動向及び事業内容について、現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、さまざまなリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。

当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、現時点において利用可能な情報に基づいて当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。